

品川・ジュネーヴ友好憲章締結25周年記念事業

ジュネーヴ市公式訪問報告書



ジュネーヴ市庁舎センターポールに掲揚された品川区旗

品川・ジュネーヴ友好憲章締結25周年記念公式訪問報告書

目次

1. 目次	1
2. 友好憲章コミュニケ	2
3. 公式訪問を終えて（品川区長 濱野 健）	4
4. 品川区議会を代表して（品川区議会議長 大沢 真一）	6
5. 行程	7
6. 公式訪問団名簿	9
7. 公式訪問 記録	11
8. 個人レポート	29
9. 参考（資料）	53
(1) 品川区・ジュネーヴ市交流経緯	55
◆友好憲章	56
(2) 品川寺の梵鐘とアリアナ美術館	60
(3) ジュネーヴ市交流事業（派遣・受入数）	61
(4) スイス・ジュネーヴ都市情報	62
(5) ジュネーヴ市からの招待（英文・和訳）	64

文中表記

AAGS : ジュネーヴ・品川友好協会 Association d' Amitie Geneve-Shinagawa

SIFA : 品川区国際友好協会 Shinagawa-ku International Friendship Association



品川区とジュネーヴ市との間の友好憲章締結 25 周年にあたり
友好交流についてのコミュニケ

2016 年 9 月 16 日、ジュネーヴに於いて

1991 年 9 月 9 日、品川寺がジュネーヴ市に贈った梵鐘の開眼式を契機に、品川区とジュネーヴ市が友好憲章を締結した。以降、両区市は誠意をもって友好を深めようと努力し、(財)品川区国際友好協会(SIFA)とジュネーヴ・品川友好協会(AAGS)の協力を得て、青少年の交流プログラムに尽力してきた。

四半世紀にわたる品川区とジュネーヴ市の継続的かつ有意義な交流のもと、互いに固い友情の絆で結ばれ、これを次の世代へ引き継いでいくものとする。

品川区とジュネーヴ市は、互いの理解と友情をさらに深め世界平和を促進するという共通認識のもと、友好憲章の 25 周年にあたり、次の通り確認する。

1. 品川区とジュネーヴ市は 14 歳から 18 歳の青少年の、夏休みを利用した二週間のホームステイを引き続き奨励する。今年の夏にジュネーヴより 17 名の青少年たちが日本・品川への訪問を行った。来年 2017 年夏に品川区より 17 名の青少年がスイス・ジュネーヴへの訪問を予定している。青少年団の訪問には必ず公式の付添者 2 名が引率する。以後、交代で相互の市区訪問を行う。
2. 品川区とジュネーヴ市は、個人ベースによるフランス語および日本語の語学研修のための高校生・大学生のホームステイを奨励する。
3. 品川区とジュネーヴ市は、適時、民間レベルでの文化、芸術、学術あるいは経済的な交流について協議する。

品川区とジュネーヴ市は、今後実施される上記交流事業を通じて、両区市民の相互理解と友情がさらに発展することを希望する。

品川区長

濱野 健

ジュネーヴ市長

Gilles Barazzone



**Communiqué concernant les échanges amicaux entre
la Ville de Genève et l'Arrondissement de Shinagawa
à l'occasion du 25^{ème} anniversaire de la Charte d'Amitié**

Genève, le 16 septembre 2016

Le 9 septembre 1991, la Ville de Genève et l'Arrondissement de Shinagawa signaient une Charte d'Amitié, à l'occasion de l'inauguration au parc de l'Ariana de la Cloche offerte par le Honsen-ji à la Ville de Genève. Depuis lors, les deux villes se sont employées avec sincérité à développer des liens d'amitié, entre autre par un programme d'échange de jeunes, avec la collaboration de la Shinagawa International Friendship Association et de l'Association d'Amitié Genève-Shinagawa.

Après un quart de siècle d'échanges réguliers et fructueux, Genève et Shinagawa confirment que leur relation d'amitié s'inscrit dans la durée et se réjouissent à l'idée que ces relations vont perdurer pour les générations à venir.

Genève et Shinagawa, partageant un commun désir de renforcer plus encore leur compréhension mutuelle et leurs liens d'amitié, et, motivés par un désir commun de promouvoir la paix dans le monde, saisissent l'occasion de ce 25^{ème} anniversaire de la Charte d'Amitié pour confirmer leur accord sur les points suivants :

1. Genève et Shinagawa entendent continuer à promouvoir des échanges de jeunes par des séjours de deux semaines dans des familles d'accueil. Ceux-ci sont destinés à des adolescents de 14 à 18 ans, durant les vacances d'été. Dans le cadre du programme courant, 17 jeunes de Genève ont visité le Japon et Shinagawa cet été et 17 jeunes de Shinagawa visiteront Genève et la Suisse en été 2017. Les groupes de jeunes sont toujours encadrés par deux accompagnateurs officiels. La formule continuera tous les deux ans de façon à ce que chaque partie aille alternativement rendre visite à l'autre.
2. Genève et Shinagawa encourageront les séjours individuels de jeunes dans des familles d'accueil, dans le cadre de stages linguistiques de français ou de japonais, au niveau du Collège ou de l'Université.
3. Genève et Shinagawa engageront, le moment voulu, des concertations pour encourager des échanges amicaux au niveau citoyen, dans les domaines culturels, artistiques, académiques ou économiques.

Genève et Shinagawa espèrent que la compréhension mutuelle et l'amitié entre leurs habitants continueront à se développer et à fructifier à travers les différents programmes d'échanges mis en œuvre.

Le Maire de la Ville de Genève

Le Maire de l'arrondissement de Shinagawa

公式訪問を終えて

品川区長 濱野 健

品川寺の梵鐘からはじまった品川区とジュネーヴ市の長く親しい友好関係が25周年を迎え、品川区公式訪問団としては実に20年ぶりにジュネーヴ市を訪問いたしました。

1991年に友好憲章を締結して以来、品川区とジュネーヴ市は四半世紀もの間、相互理解と共通の目的にたって交流の輪を広げ、友好の絆を築いてきています。この間、多くの先人たちが次の世代へと絆を引き継ぐことに尽力してこられました。特に、相互に行われている青少年ホームステイについては両区市民と両友好協会の努力や信頼関係があったからこそ続けてこられたのです。

25周年という記念すべき年にジュネーヴを訪問し、今までにない交流ができたことは、友好の絆をより一層強める機会になりました。また、今後の友好関係についても、互いに協議を重ね、さらなる発展を目指したいという両区市の思いを同じくできたことは、今後の品川区とジュネーヴ市にとって何よりの成果でありました。

ジュネーヴで、私たちは熱烈な歓迎と、細やかであたたかい、親しみをもったおもてなしを各地各所で受けました。

初めて会った方でも、こちらが品川から来たというだけで信じ、受け入れてくれているのです。最初は不思議な気持ちでしたが、これこそ25年の交流の成果であり、言葉や習慣、文化の違いを超え、真に友好関係を築くことができていると実感した瞬間でもありました。そして同時に、両区

市の青少年ホームステイ派遣生もこれと同じ体験ができていることは、品川区が目指す国際人育成、国際都市しながわへとつながるものと確信しています。

限られた日程でしたが、アリアナ美術館での梵鐘記念式典やサン・ピエール教会での合同礼拝などを通じたジュネーヴの皆さまとの交流で、品川を親しみをもって受け入れてくれ、また、品川の文化や伝統、歴史に興味や憧れを持ってくださっていることを実感いたしました。

今後は、今回バラゾン市長とともに署名したコミュニケにもあるように、青少年ホームステイ交流や高校生、大学生のホームステイを通じ、また、文化・芸術・学術・経済などの交流の可能性も探りながら、ジュネーヴ市との友好をさらに深めてまいります。



コミュニケ署名後、バラゾン市長と握手

品川区議会を代表して

品川区議会議長 大沢 真一

このたび、品川区公式訪問団としてスイス国ジュネーヴ市を訪問してまいりました。ここに、その報告をいたします。

友好憲章締結の翌年から始まった品川区とジュネーヴ市の青少年ホームステイも24年が経過し、今年で派遣・受入ともに12回を数えます。

この間に参加した両区市の子どもたちは、合わせて382名となり、引率者を含めると428名を数えます。今回の訪問では、品川区への派遣経験者が多数、案内役やボランティアとして訪問した先々でお手伝いいただき、思わぬところでも友好を深めることができました。

今回の訪問で、行く先々で、本当にあたたかい歓迎を受けました。これこそ、品川区とジュネーヴ市の両区市の間で培われた25年の友情を裏打ちするものだと感じています。

25年間でホストファミリーとしてご協力いただいた方々、ボランティアで案内や見学を手伝っていただいた方々、品川区とジュネーヴ市の調整を行い、安全にこの訪問や交流を実行していただいた両友好協会の方々、毎年交流ができるように配慮していただいた区市の方々など、本当に大勢の方々の努力や協力の賜物であり、それだからこそ、この友好憲章を守り続けていられるのだと実感する機会でもありました。

これからも、今回の経験をもとに、この友好憲章を結ぶに至った歴史を大切にし、新たな歴史をともに作っていけるよう「人と人との草の根交流」を行い、発展させていきたいと思えます。

品川・ジュネーヴ友好憲章締結25周年記念

品川区公式訪問 行程



コミュニケに署名中の濱野区長

月日	現地時刻	内容
9/15 (木) 1日目	6:30	品川駅 品川プリンスホテル リムジンバス乗り場集合
	8:30	成田空港第一ターミナル南ウイング4階集合 ミーティング
	10:25	成田空港発 LX161 (飛行時間12時間35分)
	15:50	チューリッヒ着 (乗継移動)
	16:30	チューリッヒ発 (飛行時間45分)
	17:15	ジュネーヴ着
	17:30	ジュネーヴ空港 ジュネーヴ市長によるお出迎え 歓迎挨拶
	18:10	宿泊ホテルへ移動【バス】 ホテルチェックイン
	19:00	夕食 明日の行程確認
	21:00	解散
9/16 (金) 2日目	9:00	ニーゼルAAGS会長による旧市街視察【徒歩】
	11:00	ジュネーヴ市庁舎 表敬訪問 友好憲章調印 記念品交換
	12:00	昼食会 (市最古の紳士クラブ Cercle de la Terrasse)
	14:15	ジュネーヴ市立植物園・博物館「ポタニカルガーデン」見学
	16:45	ホテルへ移動【バス】
	17:00	ホテル
	20:00	ジュネーヴ市主催の歓迎会 (約70名) 会場:ジュネーヴ市役所
22:15	ホテルにて明日の時間確認・解散	
9/17 (土) 3日目	8:30	朝食
	9:30	国際連合へ移動【バス】
	10:00	国連欧州本部見学 濱野区長・大沢議長 (品川寺 仲田順和氏、在スイス国日本大使等)
	11:30	昼食場所へ移動【AAGS会員の車】
	12:30	ジュネーヴ市長主催昼食会
	14:15	中心街へ移動【AAGS会員の車】 区議会議員ほか (品川寺同行者)
	11:30	昼食場所へ移動【バス】
	12:30	昼食 (レマン湖)
	14:15	中心街へ移動【バス】
		合流
	14:30	市中心街見学
	18:10	懇親会会場へ移動【バス】
	18:30	AAGS主催の懇親会 (140名) 区長乾杯 記念品贈呈
22:15	ホテルへ移動【バス】	
23:00	明日の時間確認等 解散	
9/18 (日) 4日目	9:30	サン・ピエル大聖堂へ移動【バス】
	10:00	サン・ピエル大聖堂にて記念合同礼拝 (品川寺 仲田順和座主)
	12:30	昼食 (Hotel Edelweiss)
	13:45	アリアナ美術館へ移動【バス】
	14:00	アリアナ美術館の庭で梵鐘の記念式典、梵鐘前の法要 (仲田順和座主)
	15:45	赤十字博物館 (アリアナ横) へ移動【徒歩5分】
	16:00	赤十字博物館視察
	18:30	レストラン Vieux-Boisへ移動【バス】
	18:45	区主催 サヨナラパーティ (70名参加)
	19:00	区長・議長挨拶 品川寺乾杯 記念品贈呈
	21:30	終了 賓客見送り
21:45	ホテルへ移動【バス】	
22:00	明日の行程確認、解散	
9/19 (月) 5日目	7:30	空港へ移動【バス 20分】
	8:00	ジュネーヴ空港着 AAGS会長、副会長とお別れ。お礼の挨拶。
	11:05	ジュネーヴ空港発 (飛行時間45分)
	12:00	チューリッヒ空港着
9/20 (火) 6日目	13:00	チューリッヒ空港発 (飛行時間13時間)
	7:50	成田空港着
	8:50	バスで品川駅まで
	10:30	品川駅で各自解散

品川区・ジュネーヴ市友好憲章締結25周年記念
公式訪問団名簿

No.	氏名	役職等
1	濱野 健	品川区長
2	大沢 真一	品川区議会議長
3	松澤 利行	品川区議会議員
4	本多 健信	品川区議会議員
5	たけうち 忍	品川区議会議員
6	あべ 祐美子	品川区議会議員
7	堀越 明	地域振興部長
8	原 明彦	区議会事務局長
9	木村 真澄	国際担当

計9名

品川・ジュネーヴ友好憲章締結25周年記念

品川区公式訪問 記録



コミュニケ署名後の集合写真

品川・ジュネーヴ友好憲章締結 25 周年記念

品川区公式訪問 記録

9月15日（木） 1日目

* 日程・時間はすべて現地時間

1. ジュネーヴ市長による歓迎（お出迎え）

①時 間 17:30～17:45

②参加者 11名

バラゾン ジュネーヴ市長、ニーゼル AAGS 会長、市職員2名
濱野区長、大沢議長、松澤議員、本多議員、たけうち議員、
あべ議員、堀越地域振興部長

③場 所 空港内会議室

④内 容

飛行機のタラップでニーゼル AAGS 会長が出迎え、そこから専用車移動し、空港内の会議室にてジュネーヴ市長と市職員から歓迎を受け、名刺交換を行った。

ジュネーヴ市長、濱野区長の挨拶があり、ニーゼル AAGS 会長の通訳でしばし歓談を行った。



ジュネーヴ空港でのバラゾン市長、ニーゼル AAGS 会長によるお出迎え

2. 空港からホテル (Hotel Royal) まで (その他)

①時 間 18時～18時30分

②参加者 公式訪問団、ニーゼル AAGS 会長、AAGS メンバー数名

③場 所 空港までのバス

④内 容

リムジンバスをチャーター(滞在中の「バス」はすべてこのバスを指す)してくれ、空港からホテルまで送迎。

ニーゼル AAGS 会長が流暢な日本語で、ホテルまでの見どころについての案内、今回の訪問日程などについて話してくれた。

ホテルの各自の部屋には、一人ひとりにあて「歓迎会等の個人名入り案内状」「市内交通カード」が封筒に入れて用意されていた。

* 市内交通カードはジュネーヴ市の宿泊施設利用者全員に、滞在期間中無料で提供されるもので、市内の路面電車・バス・トロリーバス等公共交通機関が乗り放題となる。

9月16日(金) 2日目

1. ジュネーヴ市旧市街地視察

①時 間 9:00～11:00

②参加者 ニーゼル AAGS 会長、AAGS 会員数名、公式訪問団

③場 所 ジュネーヴ旧市街視察

④内 容

昨日受け取った市内交通カードでトラムに乗り、主にニーゼル AAGS 会長からジュネーヴ市の歴史を伺いながらレマン湖のほとりでトラムを降り、旧市街を歩いて視察した。

レマン湖は6世紀中頃に山津波に襲われ、当時の人口の10%が死亡したとのことである。

ニーゼル AAGS 会長の話では、窓の形で大体の建物の建築年が分かるとのこと、ほとんどのものが500年以上前の建物がそのまま使用されていた。ただし、ほとんどの建物には4階・5階から上に2階程度増築されており、その増築部分は新しいもので100年～200年ほど前にジュネーヴの住宅事情で増築したものになるとの説明だった。

建物の基礎は500年以上前のものになるので、歩いている道の入口部分には馬車時代の名残である車軸よけの石もそのまま残されている。

旧市街の街並みから、武器庫や、ルソーの生家(外観のみ見学)の前を通り、ジュネーヴ市庁舎横にある古い大砲の説明を受けた。大砲は、日本の戦国時代あたりにジュネーヴでフランスからの攻撃があり、オーストリアからの援軍によって勝利を収めたが、戦乱に乗じてオーストリア軍に持ち去られた大砲が、一人のジュネーヴ市民の努力で返還された3門であるとのことである。

ジュネーヴ市庁舎の外観の説明では、馬で2階まで入れるようになっている通路が昔のまま残されている様子を確認した。また、初の赤十字協定、いわゆるジュネーヴ条約が交わされた一般公開していない「アラバマの間」に特別に入らせてもらい、視察を行った。

市庁舎の議会室は、現在市議会と州議会が時間を分けて使用しているとの説明があった。

その後、宗教改革についての歴史を伺いながら宗教改革記念碑を見学。

市庁舎に入る手前でニーゼル AAGS 会長から「サプライズがある」と見せていただいたのが、大通りにたなびくスイス国旗、ジュネーヴ市旗とならんだ品川区旗である。(報告書表紙の写真)

後日、在ジュネーヴ日本政府代表部の青木公使に伺ったところ、通常、国賓が来てもこのような待遇、旗(国旗)の取り扱いは行わないとのこと、ジュネーヴ市やニーゼル AAGS 会長が品川区公式訪問団への特別なおもてなしのために、大変な努力と時間をかけ、たくさんの手続きを踏んで品川区旗を掲げてくださったとのことである。この話からも、それだけ品川区とジュネーヴ市の結びつきが強固なものであるということが確認できた。



初のジュネーヴ条約が交わされたアラバマ・ルーム（一般には非公開）にて

2. 市庁舎表敬訪問、コミュニケ署名

①時 間 11:00～11:50

②参加者 約50名

バラゾン市長、ジュネーヴ市役所幹部、ジュネーヴ市職員
ニーゼル AAGS 会長、ビュルカルツ初代 AAGS 会長、ヴァルテル
AAGS 副会長、テッタマンティ AAGS 副会長、AAGS 会員、
公式訪問団、品川寺仲田順和座主ほか

③場 所 ジュネーヴ市庁舎内迎賓室

④内 容

進 行 司会:ジュネーヴ市対外関係部門ベルナルド部局長
バラゾン市長挨拶
濱野区長挨拶
コミュニケ署名
記念品交換

終了後、友好憲章締結当時の写真アルバムを見ながら、濱野区長とバラゾン市長、公式訪問団とジュネーヴ市職員などでしばし歓談した。

この訪問とコミュニケ調印を機に両区市はさらなる交流を深めていく。



コミュニケ署名中



コミュニケ署名中



区長から記念品（輪島塗文庫）贈呈



1991年の友好憲章締結時の写真を拝見

3. ジュネーヴ市立植物園兼博物館「ボタニカルガーデン」視察

①時 間 14:00～16:30

②参加者 ニーゼル AAGS 会長、ヴァルテル AAGS 副会長、公式訪問団

③場 所 ボタニカルガーデン

④内 容

ニーゼル AAGS 会長、ボタニカルガーデン館長の案内で、それぞれ専門の研究者から博物館において植物の DNA 鑑定の方法等の説明を受けた。

ボタニカルガーデンは、16,000 種類の植物を園内にもつ、世界第二位の蔵植物量を誇る植物園である。ただし、前述のように最先端の研究施設も園内にある

ため、日本 でいう「植物園」の概念には収まらず、「植物園 兼 博物館 兼 研究施設」のような施設であった。

館長の話によれば、施設の職員数は庭師が40名、植物学者(研究者)25名とのことである。

入口すぐには朝顔やひょうたんが植えられたり、途中に鳥居と砂庭のような場所もあり、日本的なところがあるかと思えば、園内の温室にはバナナやガムの木、庭園の一部には小規模ながら動物もいる。遊具がある場所もあり、たくさんの子どもたちが遊んでいた。また、ちょうど研究所前にあるカフェ近くでは放し飼いのクジヤクが数羽確認できた。

館内の図書館では、日本の植物学者、牧野富太郎校訂「普通植物図譜」の説明、地下の資料庫では押し花状に保存された花や草の標本の説明を受けた。

博物館では、全世界からの植物の標本が蒐集されている。1800 年代のものもかなり古い標本も保存されている。1817 年から植物の収集が始まり、1904 年に現在の建物が出来、その後研究施設としても使えるように整備されたとのことだった。

地下は世界各国から集められた 6,000 万種類の草花が押し花の状態で保管されている。保管場所は、ジュネーヴ市の 1960 年代以降の建築に装備されている核シェルター内(2006 年 核シェルター装備義務の法律は撤廃)になっており、植物保管量はもとより保管場所も大変興味深く説明を受けた。また、押し花の情報は、現在ではすべてパソコン入力され、そのデータを確認したり、押し花を世界各地の大学へ貸し出したりしており、新しい植物が発見されると世界から確認がくるとのこと、学術的要素が非常に強い施設である。

植物種の判別のため、世界からのアクセスも多く、世界二位の蒐集量を誇っているボタニカルガーデンは、ジュネーヴ市立でありながら国立規模の施設であるといえる。



ボタニカルガーデンの地下核シェルター内保管庫にて



135 年前に東京大学理学部から送られた植物サンプル

4. ジュネーヴ市主催 晩餐会（歓迎式典）

①時 間 20:00～22:30

②参加者 約70名

バラゾン市長、ジュネーヴ市役所幹部職員、
在ジュネーヴ日本政府代表部 嘉治大使、久保田領事、
ニーゼル AAGS 会長、AAGS 会員、
公式訪問団、品川寺仲田順和座主ほか

③場 所 ジュネーヴ市庁舎内迎賓室

④内 容

進 行 司会:ジュネーヴ市対外関係部門ベルナルド部局長

カクテルパーティ(前室)

晩餐会(次室)

バラゾン市長 挨拶

濱野区長 挨拶

嘉治大使 乾杯

旧宮殿である市庁舎で行われた歓迎会は、まずコミュニケ署名をした部屋でカクテルパーティを30分程度立席で行い、その後、次室で着席形式の晩餐会が行われた。

公式訪問団は各テーブルに1～2名程度に分散した席次になっていたが、日本語が堪能な AAGS 会員やジュネーブ日本人倶楽部(JGC)、日本人 AAGS 会員が分散して配置され、25年という交流のおかげで共通の話題も多く、言葉の問題はあるものの、工夫された席次のおかげで日本語のわかる方々に手助けしていただき、どのテーブルでも広く会話を楽しみ交流することが出来た。

バラゾン市長の挨拶に学術面での交流を図りたい旨の挨拶があったため、品川区としても発展的な友好関係を願う内容の挨拶を行った。

参加者は市職員と AAGS 会員、大使、品川区、品川寺が集い、長年の関係もあり、皆様、初対面にもかかわらず親しみを込めて皆様が接していただき、当初の予定時間を超えて話が盛り上がることができ、新たな両区市の今後の関係に期待の気持ちを持つことが出来た。

9月17日(土) 3日目

1. 国連欧州本部見学

①時 間 10:00～12:00

②参加者 ニーゼル AAGS 会長、AAGS 会員数名、公式訪問団

③場 所 国連欧州本部

④内 容

本来、土曜日で休館日だったが、特別な配慮により品川区のためだけに専門職員による見学ツアーを行っていただいた。休日のため、館内にほとんど人はおらず、ゆっくりと説明を聞くことが出来た。

新館の会議室と人権会議場、旧館の国連総会会議場と理事会室等、史実に残る会議の説明を例に、各々の会議場の特徴と由来の説明を受けた。

国際連合から国際連盟に至るまで、軍縮会議、キプロスの非核散会議、イランイラク紛争終結に向けた会議、ナイジェリア・カメルーン和解会議、アフガン紛争解決に向けた会議等、近代世界史の中でも有名な事象の議が行われた場所である。

説明の中で、国連の公用語は六カ国語(英語・フランス語・アラビア語・中国語・スペイン語・ロシア語)であるが、最近は母国語がフランス語やスペイン語の国の人でも英語を用いる方もいると聞き、公用語の中でも英語の公用性は高いのだと改めて感じた。

国連欧州本部を見学して、改めて歴史の流れ、時間軸の流れを感じることができた。人類にとって、世界にとって平和とは弛まぬ努力の結果であることを再び認識し平和の尊さを痛感した。

このような建物を品川区の青少年が実際に訪れることができることは、グローバル人材育成の観点から大変重要である。



国連欧州本部内で一番大きい総会議場。WHO、ILO 総会も行われる(2,500人収容可能)。

国連の中で欧州本部が世界で一番国際会議が行われおり、その数は年間12,000にもなる。



スペイン画家による戦争を模した壁（理事会室）



人権委員会が行われる会議室



原爆企画展



国連創立 65 周年記念に日本から贈られた
「生命の碧い星」



美しく手入れされた中庭の向こうはレマン湖。奥に観光客に人気の大噴水が見える。

2. ジュネーヴ市中心街見学

①時 間 14:30～17:15

②参加者 ニーゼル AAGS 会長、AAGS 会員数名、公式訪問団

③場 所 市中心街

④内 容

日曜日がジュネーヴ市では店舗の休日になるため、土曜の午後ということもあり、市民や観光客など大勢の人で町が賑わっていた。

人が多いため、2～4人程度のグループに分かれ、それぞれのグループに日本語ができる AAGS 会員がついて案内を受けながら中心街を散策した。

中心街とはいえ、建物自体は旧市街と同じく古いものの内装を整備して使用しているものも多く、歴史ある外観とモダンな内観のギャップが新鮮であった。建物については、旧市街と同じく4階程度までが一番古い建物、その上に2階分程度が増築されている様子は同様に、5つ星のホテルも同様に増築されていた。

街ゆく人々の人種も様々であり、観光客ばかりでなく移民が多い国柄だということが伺える。スーパーやデパートの地下の食品街には、さまざまな国のスパイスや食品が並び、2～3か国の表示がついているものが多くあった。

中心街の大通りにはトラム(市街電車)が走っており、これも賑わっていたが、これは馬車の時代からの古い街並みのままであるために駐車場が中心街近くにはなく、公共サービスのためにバスや路面電車が安価な市民の移動手段として用意されているとのことである。たしかに、市役所周辺には路上駐車用スペースがたくさんあり、駐車場は見受けられなかった。

国際機関が集まる国際都市ジュネーヴの街づくりや都市環境、交通事情、日常生活について視察することができた。



中心街の様子

3. AAGS 主催 懇親会

①時 間 18:30～22:00

②参加者 約140名

ニーゼル AAGS 会長他会員、バラゾン市長、ラチオン副議長、
嘉治大使、久保田領事、公式訪問団、品川寺仲田順和座主ほか

③場 所 インターコンチネンタルホテル

④内 容

進 行 司会：テッタマンティ AAGS 副会長、酒井 AAGS 会員（テッタ
マンティ副会長宅にホームステイ中の留学生）

カクテルパーティ(前室)

懇親会(次室)

ニーゼル AAGS 会長 挨拶

バラゾン市長 挨拶

仲田順和座主 挨拶

濱野区長 乾杯

青少年ホームステイ学生 体験談

記念品交換 SIFA から AAGS: 輪島塗花瓶
AAGS から SIFA: 湯飲みセット。陶器だが、一つは漆塗を施
されており、これは日本とスイスを表したと
の事。

公式訪問団と品川寺でバスにてインターコンチネンタルホテルへ移動した。

インターコンチネンタルホテルは、市内からは少し離れたところにあり、格式高
い色調の建物・内装で、市内ホテルでは見なかった大きな車寄せがある。

AAGS 会員の話によれば、この会場はたびたび国際的な集まりや、国際会議
のレセプション会場として使用されるとのことで、次週にも世界から集まる会議の
レセプションを行うとのことであった。

会場入口では、ニーゼル AAGS 会長やビュルカルツ AAGS 初代会長、ヴァル
テル AAGS らが、名前を呼びかけ、あたたかく出迎えてくれた。

カクテルパーティ後、懇親会会場に入ると、前方に品川区とジュネーヴ市の青
少年ホームステイ事業の様子がスライド上映されていて、品川滞在中の出来事や、
品川寺でスイカ割りを楽しむジュネーヴの派遣生たちの様子などが映されてい
た。

ニーゼル AAGS 会長の挨拶のあと、二人の楽団により、スイス伝統音楽の演奏、
日本の曲の生演奏が適宜行われており、AAGS 会員に芸術の街ジュネーヴらし
い音楽のおもてなしが素晴らしいと話したところ、通常のパーティでは見たことが

ない演出で、これも品川のためのおもてなしとして特別に用意されたものであることがわかった。

終始なごやかな雰囲気の中、懇親会は進行された。途中で AAGS と SIFA が果たしてきた役割や功労者についての話があり、その内容で同じテーブルの方々とも話が盛り上がった。

140人という大規模な懇親会だったため同じテーブルに今日初めて会った AAGS 会員の方もいたが、皆さん親しく声をかけてくれた。また、交流している25年間に来日経験がある方がほとんどだったため、ジュネーヴの地で品川の話で盛り上がる事ができたことは嬉しい驚きであり、同時に25年間の両区市の歴史や、25年間努力してこの関係を作り出してくれたすべての人々に感謝した。会場には、若い AAGS 会員が案内役などで多数お手伝いに来てくれており、そのほとんどが過去の青少年ホームステイ派遣生であった。今年7月に品川に青少年ホームステイできてくれた子どもたちもおり、再会を喜んだ。

9月18日（日） 4日目

1. サン・ピエル大聖堂での記念合同礼拝

①時 間 10:00～11:00

②参加者 品川寺御一行(仲田順和座主、品川寺・醍醐寺関連僧侶)、大聖堂シュミット牧師、ニーゼル AAGS 会長、AAGS 会員数名、公式訪問団

③場 所 サン・ピエル大聖堂内

④内 容

小雨のなか、石畳を上り、丘の上にある古い城壁に囲まれたサン・ピエル大聖堂を訪れた。大聖堂の牧師様による講和（ミサ）、讃美歌合唱後に、仲田座主を中心とした品川寺関係の僧侶5名による般若心経の読経が行われた。

先ほどパイプオルガンと讃美歌が鳴り響いた同じ場所で品川寺による読経が低音で響き渡り、寺で聞く読経とはまた違った趣となった。

品川寺と AAGS 会員のほかに、普段から日曜のミサに通っている一般のジュネーヴ市民の方々も多数参加していた。

参加者はみな一様に大変感動しており、品川寺および品川区とジュネーヴ市の交流が一般区民にも広がっているとの印象を持った。



サン・ピエール大聖堂



合同礼拝参加者



ミサ



品川寺による読経

2. アリアナ美術館 梵鐘記念式典

①時 間 14:00～15:30

②参加者 品川寺御一行、ニーゼル AAGS 会長、AAGS 会員、公式訪問団

③場 所 アリアナ美術館、アリアナ美術館庭園 梵鐘前

④内 容

バスでアリアナ公園に移動し、20分程度だがアリアナ美術館を見学した。

その後、25年前に品川寺からアリアナ美術館に贈られた梵鐘前、品川寺御一行による法要に参列した。

屋外にもかかわらず、公式訪問団が到着したときにはすでにたくさんのジュネーブ市民、AAGS 会員が雨の中で待っていてくれた。

品川寺の法要があり、仲田座主に続いて100名ほどの参列者が全員、順次鐘を突き、鐘の音がちょうど雨が止んだジュネーブの空に鳴り響いた。

アリアナ美術館の梵鐘周辺には、ジュネーブ日本倶楽部（JCG）の方々が植樹したソメイヨシノ20本でできた桜並木と、梵鐘贈還時に品川寺よりアリアナ美術館へ贈られた唱道寺型石灯籠が設置されている。鐘はもち

ろん、桜などのことも地元・ジュネーブでは知られているとのことである。

合同礼拝、梵鐘前の法要の見学に AAGS 会員を始め多くの一般市民が参加しており、梵鐘を通じた友好の深さを実感するとともに、梵鐘の偉大さを痛感した。



1990年に品川寺からアリアナ美術館に贈られた梵鐘



品川寺による梵鐘記念式典



鐘を突く濱野区長



アリアナ美術館

3. 赤十字博物館見学

①時 間 16:00～17:30

②参加者 ニーゼル AAGS 会長、AAGS 会員数名、公式訪問団

③場 所 赤十字博物館

④内 容

2013年に赤十字誕生150周年を祝いリニューアルオープンした赤十字博物館を見学した。人権擁護、再会支援事業、自然災害リスク軽減のテーマに分けられた館内は、体験型の内容になっており、人物の等身大パネルに手を合わせると地雷で手足を失った経緯をその人が話しはじめたり、戦争捕虜の居場所を台帳から探す作業を体験できるなどの展示方法が非常に印象的であった。

国境を越えて全世界で医療活動を行っている国際赤十字の創設者アンリ・デュナンがジュネーヴ出身であることから、国際委員会本部がジュネーヴにある。その本部敷地内に赤十字博物館があり、そこが国連欧州本部の前という立地であることもジュネーヴならではの光景であるといえる。改めて国際都市・平和都市ジュネーヴの意味を知り、非核平和都市宣言を行っている品川区の青少年を派遣する意義を強く感じた。



赤十字本部



赤十字博物館入口

4. 品川区主催 サヨナラパーティ

①時 間 18:30～22:00

②参加者 約70名

公式訪問団、バラゾン市長、ラチオン副議長、市幹部職員、
ニーゼル AAGS 会長、副会長をはじめとした AAGS 会員、
品川寺ご一行、青木公使、久保田領事

③場 所 レストラン Vieux-Bois(レストラン専門学校をもつレストラン)

④内 容

濱野区長をはじめ公式訪問団主催の、訪問受入に対する謝意をあらわす
ためのお礼の会を行った。

滞在中お世話になった方々を60名程度招待した。

進 行 司会:堀越地域振興部長

カクテルパーティ (前室)

公式訪問団は品川区の法被を着用し、入り口にてお出迎えと挨拶。

入口に招待者の名札を置き、来訪者に着用してもらった。

サヨナラパーティ (次室)

濱野区長 挨拶

大沢議長 挨拶

バラゾン市長 挨拶

品川寺 仲田座主 乾杯

記念品お渡し

品川区より 品川区浮世絵風呂敷、浮世絵絵葉書、折鶴

SIFA より 輪島塗名刺盆

*各自、自分のテーブルの参加者に対して手渡しした

ニーゼル AAGS 会長による、締め挨拶と三本締め

4日間という短い期間だったが、ご招待したほとんどの方と連日顔を合
わせ顔見知りになっており、大勢の方々にお世話になったことに改めて気
づくことになった。

濱野区長挨拶では、4日間でたくさんの方々のおかげで充実した訪問に
なったことへのお礼、梵鐘からはじまった今後の両区市の交流についてが
語られ、10月に品川区を訪問されるバラゾン市長を楽しみにお待ちしております
いと伝えられた。

大沢議長からは、両区市の交流の中心になっている青少年交流の重要性
と今後の発展について話をした。

それを受け、バラゾン市長からは両区市の友好関係と交流について、今

後ともさらなる発展について話し合っていきたいとの言葉を戴いた。

品川寺の仲田座主の乾杯で和やかに歓談が始まり、各テーブルに分かれた公式訪問団は、それぞれ最後の交流を行い名残を惜しんだ。

最後は品川またはジュネーヴでの再会を誓いながら、ニーゼル AAGS 会長の「品川方式」という紹介での三本締めで、予定時間を超えて盛り上がったサヨナラパーティを終了した。

パーティの中で印象的な話が2点あった。ひとつは、在ジュネーヴ日本政府代表部 青木公使が品川区とジュネーヴ市の友好関係は、日本にとっても理想的な関係であり、今日のサヨナラパーティに招待されたことについてお礼を述べられたこと。ふたつめは、ジュネーヴ市のベルナルド対外関係部局長との話の中で、ジュネーヴ市には世界各国から友好関係を結びたいという依頼が絶えないが全て断っており、「品川区はジュネーヴ市にとって特別な相手で、私たちにとってもこの友好関係が大切だ」と繰り返し伺ったことで、市の幹部が品川をそのように考えてくれていることが嬉しかった。

会の終了後、帰る方々を公式訪問団で一列になり握手をしながらお見送りした。

今回の訪問が、品川区とジュネーヴ市の友情の架け橋として、未来へ続いていくものとの確信を得た。

9月19日（月） 5日目

1. 空港お見送り

①時 間 7:15～8:30

②参加者 公式訪問団、ニーゼル AAGS 会長、AAGS 副会長、

③場 所 ホテルからジュネーヴ空港

④内 容

早朝にもかかわらず、ニーゼル会長と両副会長がホテルまで迎えに来てくれ、バスに同乗して空港まで送ってくれた。

空港でも、荷物預入やチケット発行を一緒に行っていただき、搭乗手続きをして空港内に入る最後までお見送りいただき、見える限り手を振ってくれた。

空港内に入る直前に皆でお礼の気持ちを伝え、再会をお約束してのお別れとなった。

個人レポート

1. 感想

【9月15日(木) 1日目】

① ジュネーヴ市長による歓迎(お出迎え)

バラゾン市長、濱野区長が挨拶。両区市の友好の絆を再確認する一幕である。初対面ゆえの緊張感もあるが、同時に交流で培った親和性に裏付けられた近しい距離感を感じ取ることが出来た。

【9月16日(金) 2日目】

② ジュネーヴ市旧市街地視察

歴史と伝統を感じざるを得ない街並みを眺める。地震が少ないゆえの石材を積み重ねた重厚感ある建造物である。また、増築を施した建物もあり、窓の形状によって積み足した年代が判別できる。旧兵器庫では、シーザー到来の図が描かれており、歴史の重さを感じることができる。

③ 市庁舎表敬訪問・友好憲章コミニケ署名

25年にわたる両区市の友好の深さを認識するとともに、この訪問を機に、さらに未来に向けて絆を深めていくことの肝要さを改めて感じ取った。
梵鐘の存在の大きさを考えさせられた。

④ ジュネーヴ市立植物園兼博物館「ボタニカルガーデン」視察

博物館では、全世界からの植物の標本が蒐集されている。1800年代のものをはじめ、他にはそれ以上の古い標本も保存されていることには大変驚いた。学術的色彩が非常に強い施設である。植物種の判別のため、世界中から問い合わせがあり、本来なら国家的プロジェクトでもよさそうなものであるが、なぜかジュネーヴ市立である。さすが文化・芸術国スイスであると感心させられた。

⑤ ジュネーヴ市主催 晩餐会(歓迎式典)

バラゾン市長の挨拶の言葉を受け、濱野区長より学術面での交流を図りたい旨の挨拶があった。隣席のラチオン副議長は、大変気さくで陽気な方で、政治のみならず音楽、芸術についても広く意見交換を行い、歓迎会自体も予定終了時間を大幅にオーバーするほどの大変な盛り上がりで、十分な交流・親交ができ、皆さんの心の温かさを真に感じる事ができた。

【9月17日（土）3日目】

⑥ 国際連合欧州本部見学

新館の会議室と人権会議場、旧館の国連総会会議場と理事会室等、史実に残る会議の説明を例に、各々の会議場の特徴と由来の説明を受けた。改めて歴史の流れ、時間軸の流れを感じることができた。人類にとって、世界にとって平和とは弛まぬ努力の結果であることを再び認識し平和の尊さを痛感した。

⑦ ジュネーヴ市中心街見学

AAGS 会員の案内で訪問団からさらに少人数に分かれて行動し、ジュネーヴ市の中心部を見学した。

土曜の午後でもあり、多くの人々が町を歩き交っていたが、猥雑ではなく、ある意味清潔感すら漂う。道路の両側には鼓楼のような建造物が立ち並ぶが不思議と圧迫感を感じられない。完全に街の景観として存在感を誇示していた。

⑧ AAGS 主催 懇親会

会場では、品川区とジュネーヴ市の青少年ホームステイ事業など交流事業の様子をスライド写真で映写していた。終始なごやかな雰囲気の中、懇親会は進行された。通訳を通してではあるが、互いの議会事情、都市事情などの情報交換を行う。ジュネーヴ市議会の議員は少々の日当を伴うものであるがボランティアに近い。80名の議員で議会は構成されているが、それでも足りないとのことである。政治に対する市民意識の違いを感じた。住民による投票制度レファレンダムの多い土地柄であると認知する。

【9月18日（日）4日目】

⑨ サン・ピエル大聖堂での記念合同礼拝

和と洋の鮮やかな対比と調和であった。読経の始まりを機に大聖堂内に唱読の低音が響き渡り、感動した。洋の讃美歌と和の経との見事なコントラストがあり、大きな充実感、心の充足感を得ることが出来た。

⑩ アリアナ美術館 梵鐘記念式典

供養読経中、ギャラリーには AAGS 会員の皆様を始め、多くの一般市民の方が参加していた。梵鐘を通じた友好の深さを実感するとともに、梵鐘の偉大さを痛感した。市民の方々のごこちない鐘打が印象に残る。文化の違いに感心させられた。

⑪ 赤十字博物館見学

国際赤十字の歴史や主な取り組みについての資料展示品の見学を行った。赤十字が世界に果たす役割が何であるかを知りえることができ、有意義であった。兎にも角にも、赤十字奉仕団をはじめとする赤十字の活動に無知であることに愕然とした。

⑫ 品川区主催 サヨナラパーティ

わずか4日間であったが、初日より2日目と、日を追うごとに多くの時間を共有することにより友好の深まりを感じた。この友好の感を次代につなげていかなければならぬという責任を、交流を通じて痛感した。

【9月19日（月）5日目】

⑬ 空港お見送り

帰国に際し、ニーゼル氏をはじめとする AAGS の会員の方々に対し多大なる謝意を感じた。このような国家間の草の根交流の重要性を再確認した。

AAGS の会員各位については、日本文化への強い憧憬の念があることは論を待たない。



大沢議長からバラゾン市長へ記念品（江戸切子グラスセット）贈呈

1. 感想

【9月15日（木）1日目】

① ジュネーヴ市長による歓迎（お出迎え）

飛行機を降りたところでニーゼル AAGS 会長が出迎えてくれた。日本語が達者で、何よりも我々訪問団を迎える温かみを感じられ嬉しかった。その後、空港内でバラゾン市長より歓迎の挨拶を受けた。

ギョーム バラゾン市長は34歳で弁護士資格を持つとのこと。分刻みのスケジュールをこなしているとのこと、我々と挨拶のあと、次の公務のため退席された。

【9月16日（金）2日目】

② ジュネーヴ市旧市街地視察

ニーゼル AAGS 会長の案内で、昨日の無料パスで市電に乗りレマン湖のほとりで降車し視察へ向かう。

旧市街は湖畔から石畳の坂を上った丘の上にある。両側は石造りの4～5階建ての建物、そのすべてが上の階は増築されている。14世紀から続く建物がびっしりと建っている。ジュネーヴは1815年のウィーン会議でスイスの独立と永世中立が認められ、ジュネーヴが22番目の州として加入が認められている。以来、200年間、平和を守っている、このような素晴らしい中世の街並みが残っている。戦争のない平和の大切さが思い知らされる。

③ 市庁舎表敬訪問・友好憲章コミュニケ署名

市庁舎では、ポールにスイス国旗、ジュネーヴ市旗、品川区旗が掲揚されていることに感動し、ジュネーヴ市のおもてなしを強く感じる事ができた。

品川区とジュネーヴ市の友好憲章は、国連欧州本部、国際赤十字をはじめとする多くの国際機関の所在地であるジュネーヴ側がその中立性を維持する必要があったため、姉妹都市協定ではなく友好憲章の制定として実現したものである。25年後の今日、その再確認として濱野区長とバラゾン市長で再確認の署名を行った。厳かな署名式典であった。

④ ジュネーヴ市立植物園兼博物館「ボタニカルガーデン」視察

博物館には8,000種にのぼる植物の標本があり、見学をさせていただいた。驚いたことに博物館は地下3階まですべてが核シェルターになっている。その地下一階が保管庫となっていた。地下核シェルターは二重扉になっていて外扉は厚さ15cmのコンクリートである。地上にある植物図鑑を収納している図書館はシェルターの一部に過ぎず、敷地全体がシェルターになっているとの事であった。

⑤ ジュネーヴ市主催 晩餐会（歓迎式典）

市庁舎とはいっても旧宮殿である。驚いたことに日本の大使や領事も招かれており、ジュネーヴ市側のもてなしの深さを感じた。私の隣はAAGS会員で滞在中にジュネーヴの大学を卒業した22歳のジュネーヴ在住の女性である。これから国際機関への就職活動を行うという彼女の通訳のおかげで、周りの方と話をすることが出来た。もう一方の側も女性で、AAGSの会員であった。

【9月17日（土）3日目】

⑥ 国際連合欧州本部見学

建物は新旧二つあり、旧館は国際連盟時代の建物であった。新館にも大きな会議室があり、平日には会議で使用されているとの事であった。現在の国際連合の本部はニューヨークの国連ビルの中にある。ここは国際連合の欧州での本部であった。

⑦ ジュネーヴ市中心街見学

AAGS会員の案内で、少人数で説明を受け、質問をしながら町を見学した。建物は石造りの4～5階建てのものが多く、屋根には暖炉用の小さな煙突がたくさん出ている。ロンドンなどは暖炉用の煙突は使用禁止になっているが、ジュネーヴではまだ使用できるとのことであった。環境にうるさいジュネーヴで、なぜ暖炉用の煙突が許されているのか不思議な思いがした。

また、移民を多く受け入れているジュネーヴ市の悩みは国語教育だという。スイスではフランス語・ドイツ語・イタリア語・現地語の4つが公用語になっており、そのことが移民への国語教育を難しくしているとのことであった。

ジュネーヴは物価・家賃が高いため、フランスに住居を構えジュネーヴに勤務する人が多いとの話を聞いた。

⑧ AAGS 主催 懇親会

AAGS の活力には驚かされた。品川寺一行も同席しての会で、私の席は左が品川寺住職のご子息 仲田順英氏、右側が明日訪問予定のサン・ピエル教会の司祭夫妻であった。在ジュネーヴ日本政府代表部嘉治大使、久保田領事、ジュネーヴ市長と市の幹部方も参加され、AAGS の動員力とそのもてなし、やさしさ、大きさに心打たれた。今年7月に日本への青少年ホームステイ派遣生として参加した女子高校生が体験談を語ってくれた。

【9月18日（日）4日目】

⑨ サン・ピエル大聖堂での記念合同礼拝

一般のミサへの参列者を含め、約200人が参加した、キリスト教プロテスタントと仏教の融合である厳かな合同礼拝であった。サン・ピエル大聖堂は古い大きな教会であり、最盛期には宗教と政治の中心地として栄えた。大聖堂は古い高い城壁に周囲を囲まれており、堂々とそびえていた。永世中立国スイス国ジュネーヴ市における、ミサと読経という東西宗教の融合は、見るものを感動させた。

⑩ アリアナ美術館 梵鐘記念式典

アリアナ美術館に向かって右側の傾斜を150mほど下ったところに、梵鐘のレプリカが設置されており、そこが式典の会場になっていた。記念式典の時間は1時間強、読経の間、100名近い関係者や見学者が外に設置されている椅子に座り、座りきれない人々は立って読経を聞き入っていた。その後、二人ずつ鐘を突き、式典が終了した。品川寺の小学5年生のお孫さんがきれいな声で歌を歌い、参列者の上を響き渡っていた。梵鐘のすぐそばには、品川寺から贈られた桜の並木道があり、2014年のスイス・日本国交樹立150周年を記念にジュネーヴ日本倶楽部（JCG）から寄贈された20本のソメイヨシノが植えられている。ジュネーヴの一等地に日本の桜の木が植えられていた。

⑪ 赤十字博物館見学

博物館の入り口で日本語の通訳機器を借り、中に入った。内部は各部屋に分かれており、部屋に入りボタンを押すと、今見ているものの説明が日本語で流れるようになっている。移民差別・貧困・捕虜・戦争、さまざまな局面での赤十字の活動が知らされてくる。

⑫ 品川区主催 サヨナラパーティ

公式訪問団一行は、品川から持参した法被を着て招待者を入口で迎え入れた。濱野区長と大沢議長が挨拶を行なった。結局、日本大使館の方は3日間にわたり全ての夜の懇親会にご出席いただいた。連日にも関わらず、ジュネーヴ市長ほかたくさんの方々、約70名が参加され、おおいに盛り上がった。

【9月19日（月）5日目】

⑬ 空港お見送り

最終日、早朝にも関わらず7時15分にはニーゼル AAGS 会長、副会長2名がホテルから空港までバスで送ってくれた。

8時に AAGS 会長・副会長にお礼のあいさつを行いお別れ。

【その他】

① ホームステイ事業について

AAGS 懇親会に、今年の8月に青少年ホームステイに参加したジュネーヴの女子高校生が訪問の話をしてくれた。震災の年以外、両区市間でのホームステイは続けられ、近年は引率者の中に青少年ホームステイ経験者がいることもあるとのことで、友好・親睦の和がさらに広まっている。若者のお互いの理解のため、特に島国日本の若者には有意義な経験になっていると考える。

② ジュネーヴ・品川友好協会（AAGS）について

今回の訪問で、AAGS の方々に大変に良くもてなしていただいた。AAGS 会員は約200名。特に、フィリップ・ニーゼル会長はご高齢にもかかわらず毎日案内をしていただいた。AAGS 会員は会長の働きによるところが大であるが、200名の会員の働きは大変なものであった。品川区には品川区国際友好協会（SIFA）があるが、ぜひ5年後にジュネーヴの方々を訪問されるときには行事を行って欲しいと思う。

1. 感想

【9月15日(木) 1日目】

① ジュネーヴ市長による歓迎(お出迎え)

バラゾン市長、ニーゼル AAGS 会長が正装で出迎え、空港のラウンジを貸切り、我々を歓迎していただいたことは、おもてなしの心を戴いた気持ちになった。また、長い時間をかけ我々公式訪問団の受入れに準備を要した様子が伺えた。

【9月16日(金) 2日目】

② ジュネーヴ市旧市街地視察

建物は古い歴史を持ち、長い年月をかけ増築、改築を行ってきたが、ほとんどが6階程度の一定の高さに保たれている。実際に使用しながら保存を行っている。1536年～1602年の戦乱においては、オーストリア軍が撤退時に、ジュネーヴ市の大砲3門を持ち去ったがその後、一人のジュネーヴ市民が、オーストリアに対し、我が国の大砲を返還するよう求め、強い意志と粘りの交渉により返還が実現された。この事柄をジュネーヴの人々は後世に伝え続けている。愛国心と勇気のある行動。まさに政治の重要性を教わり、のちの平和への礎を知った。また、愛国心の表れとして、国連・スイス国・ジュネーヴ市の旗3本を街並みに掲げているのも日本人が学ぶべき点であると実感した。ニーゼル AAGS 会長の説明は我々日本人が分かりやすいように工夫されていた。たとえばジュネーヴ市で起きた事柄について日本の歴史年代に置き換えてくださり、日本の歴史についての知識の豊富さに驚いた。

③ 市庁舎表敬訪問・友好憲章のコミュニケ署名

我々を迎えるにあたり、市庁舎の旗が平常時の「国連・スイス国・ジュネーヴ市」の旗ではなく「品川区旗・スイス国・ジュネーヴ市」のものに変更されており、その3つの旗を目にしたとき、とても感動した。ニーゼル AAGS 会長の話では、この3本の旗を並べるための手続きや説得が大変困難を極めたとのこと。感謝、感謝の気持ちであった。濱野区長、バラゾン市長によるコミュニケへの署名は、今後の両区市民の相互理解と友情がさらに発展し、交流事業が充実されるよう、一堂に会し心ひとつになったことが実感できた。

④ ジュネーヴ市立植物園兼博物館「ボタニカルガーデン」視察

ジュネーヴ市の年間予算のうち20%は文化について計上されているということが納得できる充実した施設であった。古来の資料、スイスの書物、日本の書物など、保管状況の良好さには、品川の所有される文化財や書物の取り扱いに学ぶべき点が多いと感じた。ボタニカルガーデンの建物の地下階はシェルターになっており、貴重な資料等が守られていた。

⑤ ジュネーヴ市主催 晩餐会（歓迎式典）

8テーブルに分かれていたが、ジュネーヴ市側、品川区公式訪問団、品川寺関係者、それぞれのメンバーが意見交換しやすい配置になっていた。バラゾン市長の挨拶の一コマで、両市区について「ユニークで不思議な絆」と話していたことに強い印象が残った。また、世界中の都市から訪問団が訪れるそうだが、このように市庁舎で歓迎式典や晩餐会を行うことは、品川区に対してのみだとのこと。品川区だけのおもてなしとわかり、あらためてジュネーヴ市の品川区への特別なおもてなしに感謝した。

隣席のベルギー人のジュネーヴ市職員と日本人夫妻はフランスの自宅から毎日ジュネーヴ市に出勤している。理由はジュネーヴの高い物価にあるとのこと。比較的安価なフランスでの生活を決めたと話していた。また日本文化や和食も好きで、ヨーロッパでは500円ほどする納豆も好きで食されるとの事。文化や経済の話、ユーロ離脱など、多種多様な話をする事ができた。

【9月17日（土）3日目】

⑥ 国際連合欧州本部見学

品川区のために国際連合欧州本部を特別に開けて、国連職員による説明のもと、見学を行った。この対応一つとっても、関係者のご尽力に感謝してやまない。イラン・イラク戦争の終結に向けての話し合いや軍縮会議を行う理事会室の壁や天井には世界5大陸を意味する5人の巨人が武器を手で押さえる壁画が描かれていた。このジュネーヴ市の国連では年間一万二千もの会議が行われ、昭和20年に日本に原爆投下されたあと、日本への人道支援が最初に行われたのもジュネーヴが最初であった。

⑦ ジュネーヴ市中心街見学

市内どこを見ても自然の美しさと歴史の重みを大切にされているようすが、市中心街も全く同様であった。ジュネーヴ市は、市内人口の半分は外国人とあって、異文化を尊重しつつ自国の文化を大切にしている。

⑧ AAGS 主催 懇親会

この日の座席割にも、各テーブルに日本語を話せる人が近くに必ずいるなどの品川区訪問団への配慮が見受けられた。ジュネーヴ側の参加者のほとんどが日本・品川を訪れた経験があるというのは、25年間、四半世紀による友情の証ともとれた。音楽・歌による演奏があり、二人の音楽家はスイスの国中の楽器・歌・踊りを披露してくれ、参考になった。

【9月18日（日）4日目】

⑨ サン・ピエル大聖堂での記念合同礼拝

日曜部の礼拝ということもあり、多くの市民とともに聖書を読み、讃美歌を歌い、心清らかな思いを感じるなかで品川寺側による般若心経の御勤めがあった。品川寺の仲田順和座主のお孫さんによる清らかな歌声に感動し、この合同礼拝に参列できたことに感謝の気持ちでいっぱいになった。

⑩ アリアナ美術館 梵鐘記念式典

雨が降るなか、記念式典に200人を超えると思われる多くのジュネーヴ市民が参列していたことに、梵鐘の歴史と人々の結びつきを感じ、これから新たな歴史の1ページをつくるなどの願いや思いは一つだったと思えた。式典の冒頭、仲田順和座主のお孫さんによる歌声を、サン・ピエル大聖堂での合同礼拝に引き続き聞くことが出来、改めて感動した。小学生の男児がたった一人で儀式のスタートを行う、まさに牽引役である。このような重要な行動が友好の橋渡しになっている点、品川とジュネーヴの相互理解のために皆に伝える必要性があると思われる。

⑪ 赤十字博物館見学

赤十字の長く苦しい時代からの脱却により立ち上がるという経緯を知る。世界の中心であるジュネーヴに位置する、赤十字博物館とその展示内容により、人間の恐ろしさ、優しさ、尊さを知ることが出来た。この趣旨を広く周知できることを願う。

⑫ 品川区主催 サヨナラパーティ

この数日間の25周年記念行事について、また友好都市締結からこの25年間について振り返りさまざまなお話を伺うことが出来たのも、同じテーブルに創設メンバーであり、初代AAGS会長のエリック・ビュルカルツ氏がいらしたからである。また、ジュネーヴの方より、今あるスイスの平和、ジュ

ネーヴの平和は1602年にあった戦乱にジュネーヴが勝利したことから始まっていること。その戦勝記念日である12月12日には毎年「エスカランド」(＝昇る)というフェスティバルがあり、この日に市民はチョコレートを砕いてお祝いするという、歴史と文化について話を伺うことができた。今後の友情を誓い合い、終了となった。

【9月19日(月)5日目】

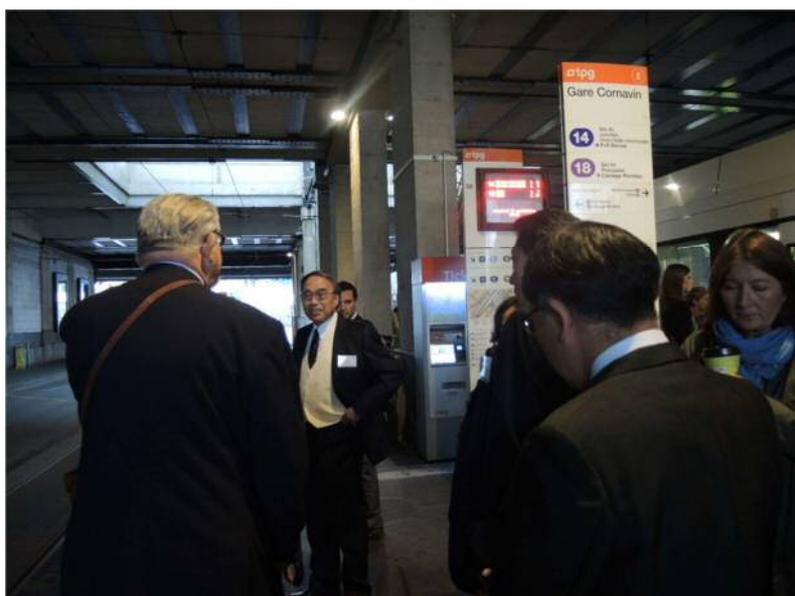
⑬ 空港お見送り

初日の到着より最終日の帰路に着くに到るまで、ニーゼル AAGS 会長に立ち会っていただき、頭が下がる思いだった。空港でお見送りしていただいた AAGS 会長、副会長に再会をお約束し、お礼の挨拶を行った。

【その他】

① 公共交通機関を利用するにあたり

市街をめぐるにあたり、移動するための乗車券「ジュネーヴ トランスポートカード 2016 フリーパス」が1人1人に配布された。これは市民の生活感を知るいい機会だった。またジュネーヴを訪れる人々の利便も考慮されている取り組みであった。我々、品川区訪問団が体験するという目線に配慮されていると思った。



トラム乗り場にて(2日目 旧市街への移動)

1. 感想

【9月15日（木）1日目】

① ジュネーヴ市長による歓迎（お出迎え）

市長自ら、出迎えて頂き、感謝。また、空港のいわゆるVIPルームでの歓迎に驚くとともに、市長のあいさつの中から、友好都市の交流をさらに発展させたいとの意欲を感じた。

【9月16日（金）2日目】

② ジュネーヴ市旧市街地視察

約500年前に造られた建物が多く残っている市街地の石畳を歩き、ニール会長の造詣深いお話を伺うことが出来、新旧が混在するジュネーヴという都市の魅力を実感できた。特に地震が少ないため、品川よりも面積が狭いながらも数多くの歴史的建造物や街並みが残っていることは素晴らしく、うらやましく感じた。

③ 市庁舎表敬訪問・友好憲章コミニケ署名

今後のさらなる友好を深めゆくための新たな提案があり、濱野区長もあいさつの中で、提案にこたえる形で前向きに検討する旨の発言があった。友好憲章締結25周年、また20年ぶりのジュネーヴ訪問の意義を深く感じる瞬間に立ち会うことが出来、大変に感動した。市長は10月に訪日し、品川区にも立ち寄る予定との話があったため、その際には、今回訪問した議員も可能な限り、お出迎えをしたい旨を関係部局に要望した。

④ ジュネーヴ市立植物園兼博物館「ボタニカルガーデン」視察

20年ほど前からは植物もDNAを解読できるようになったとの事で、解読の工程を視察させていただくなど貴重な体験ができた。干し草のサンプルが保管されている地下は核シェルターになっており、スイスならではの国民性を感じた。運営にあたっての予算について質問した際、約1700万スイスフラン（日本円で約18億）との事で、植物園も含めて、ジュネーヴ市は文化のための予算が約20%を占めていると伺い、文化に対する価値観や考え方の違いを認識させられた。図書館では、日本や品川が掲載された書物を事前に用意いただき、おもてなしの心を学ばせていただいた。

⑤ ジュネーヴ市主催 晩餐会（歓迎式典）

親交を深めるべく、8テーブルに分かれての意見交換。日本では慣れない晩餐会のため最初は気苦労があったが、ジュネーヴの関係者の方の温かい人柄とおもてなしの心に触れ、感動の晩餐会となった。

【9月17日（土）3日目】

⑥ 国際連合欧州本部見学

多くの国際機関がひしめく国際都市ジュネーヴのなかで、象徴ともいえる国連欧州本部内を職員の方の詳細な説明とともに見学させていただくことが出来、感動した。中でも、普段は見学が難しいとされている、国連理事会室は、国際連盟時代にも使用された部屋で、天井には5大陸を表す5人の巨人が手を組み支えあっている壁画があり、武器が世界中のどこにも落ちないようにとの意味が込められているとの事。世界平和の拠点ともいえる国連で、また品川区と友好を結ぶジュネーヴの地で日本の平和希求の原点ともいえる原爆の展示に出会えたことに深い感銘を受けるとともに、改めて、品川区民の一人として、平和への思いを心に刻みながら、さらなる友好を通じて、世界平和の一助となるよう、取り組んでいくことを決意した。

⑦ ジュネーヴ市中心街見学

市街地を視察した際、ニーゼル会長の、かつて約1500年前にレマン湖に注ぐローヌ川に巨大な地滑りにより、大量の土砂が流れ込み、レマン湖に巨大な津波が発生し、ジュネーヴ一帯がほぼ全滅の被害を受けたことがあるとの話。中心街は趣のある街並みが広がり、ショッピングやランチを楽しむ人々で賑わっていたが、気になったのは、ホテル等の建物内の徹底した禁煙の反動か、屋外の喫煙状況はいたるところに設置された灰皿付近や、未設置の場所でも受動喫煙の状態が広がっており、観光客にとっての印象はどうか気になった。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた日本・品川での体制整備の参考にしたいと感じた。

⑧ AAGS 主催 懇親会

AAGSの皆様の献身的な対応に、ただただ感謝の思いで一杯になった。区や議会の訪問がかなわなかった期間も、品川区国際友好協会の方々と共に友好を深めて頂き、改めて民間の草の根の交流の大切さを痛感するとともに、行政の支援のあり方を検証し、さらなる充実を図っていくべきと感じた。

【9月18日（日）4日目】

⑨ サン・ピエル大聖堂での記念合同礼拝

ジュネーヴ市民の信仰の柱として、12世紀に建築され、宗教改革の祖といわれたジャン・カルヴァンが説教していたサン・ピエル大聖堂の荘厳なる雰囲気の中、日本の品川の品川寺の御法主の導師で、仏教のお経が読寿されたことは、まさに、キリスト教と仏教という世界3大宗教のうちの2つが出会う、宗教を超えた文化と文化、歴史と歴史の融合した瞬間に立ち会う事が出来たことに感動した。

⑩ アリアナ美術館 梵鐘記念式典

厳かに式典が行われ、参列させていただくとともに、梵鐘をつかせていただいた。梵鐘の設置されているアリアナ公園には友好団体等から寄贈された桜や銀杏が植樹されている。

「国連ヨーロッパ本部と国際赤十字本部の間に鳴り響く梵鐘の響きは、まさに世界平和を願う両区市民の喜びを表すもの」と友好憲章の前文にうたわれているが、品川区民の代表として、20年ぶりにこの場に集えたことに深い意義を感じるとともに、微力ではあるが友好推進のお役に立てるよう、決意を新たにしました。

⑪ 赤十字博物館見学

国境を越えて全世界で医療活動等を行っている国際赤十字の創設者デュナンがジュネーヴ出身であることから国際委員会本部がジュネーヴにあり、その敷地内に同博物館が設置されていることを知り、改めて、国際都市・平和都市ジュネーヴの深い意義とポテンシャルの高さに感銘を受けた。

今後は、非核平和都市宣言を行っている品川区とのさらなる友好を図る上で、「平和」をキーワードとした取り組みをさらに検討するべきと感じた。

⑫ 品川区主催 サヨナラパーティ

3日間、お世話になった感謝を少しでも伝えることが出来ればとの思いで出席したが、言葉の壁を改めて感じた。そのような中で、24年にわたって隔年で青少年のホームステイ受け入れを実施してきたAAGSや国際友教会等の関係者のご努力に敬意を表するとともに、さらなる支援の充実を図るべきと感じた。また、5年後にはジュネーヴからの訪問団を受け入れる品川区としては、今回の至れり尽くせりのおもてなしをしっかりと学ばせて頂き、さらなる友好を深められるよう、しっかりとした準備の必要性を痛感した。

4年後の東京オリンピック・パラリンピック開催にあわせた交流も視野に入れた検討も必要と感じた。

【9月19日（月）5日目】

⑬ 空港お見送り

AAGS会長はじめメンバーの方々がわざわざ空港までお見送りいただき、改めて、感謝の思いで一杯になった。さらなる友好促進に向けて微力ながら取り組んでいきたい。



ボタニカルガーデンにて

1. 感想

【9月15日(木) 1日目】

① ジュネーヴ市長による歓迎(お出迎え)

市のゲストに対して、航空機タラップに専用車を乗り付けて空港内会議室に案内するという手配が市として可能だということに驚くとともに、ジュネーヴ市側が最大限の礼を示している表れと受け止めた。

初対面のニーゼル AAGS 会長が、到着時に議員全員の顔と名前を覚えていたことに敬服。「おもてなし」の真骨頂と感じた。ホテルでは、各自の部屋にあらかじめ、各歓迎会等の名入り招待状と市内交通カードが手配されており、多くの方が周到な準備をしてくださっていることが伝わって、ありがたかった。

【9月16日(金) 2日目】

② ジュネーヴ市旧市街地視察

ローマ時代から脈々と続くジュネーヴ市の歴史を伺いながら、独立心と地域への誇りを強く感じた。旧市街は500年前の街並みをベースに増改築され、馬車時代の名残も。古いものを壊さない、撤去しないまちづくりに感銘。複数の会員に伺ったところ、ジュネーヴ市民という意識の方がスイス国民としての意識よりはるかに強い、とのことで興味深かった。ジュネーヴが宗教改革の中心地であったこと、ジャン・ジャック・ルソーの生誕地であることを改めて意識。自治意識の強さとともに、既存の概念を大きく覆すジュネーヴの歴史的なパワーの源泉はどこにあるのか興味深い。

③ 市庁舎表敬訪問・友好憲章コミュニケ署名

バラゾン市長のスピーチは、これまでの友好関係を確認するだけでなく、今後に向けた新たな関係への目標設定を目指そうとする提案を含んだもので、感銘を受けた。濱野区長もこれを受けて前向きに考えたい意向を示され、非常に意義深い式典だったと感じた。歴史の重みを感じさせる会場も印象的。品川にも、訪問客に品川の歴史と文化を感じてもらえる場があればと感じた。

④ ジュネーヴ市立植物園兼博物館「ボタニカルガーデン」視察

世界中から集められた18世紀以来の花の標本、図書館など、詳細な説明を受けながら見学した。広さ20万平方キロメートル、約100人が働く植物園・植物研究所は、市の予算で運営。予算額は確認できなかったが、市の予算の20%以上は文化部門に充てられているとのこと。標本室では日本の明治時代に採取された標本、図書室では日本の古い文献などがみられるように展示しており、それぞれの部門でのゲストへの配慮ぶりに驚きと感謝の念を抱いた。また、どの国からのゲストにもそうした準備ができるほど充実したコレクションを維持管理していることがうかがえた。

⑤ ジュネーヴ市主催 晩餐会（歓迎式典）

ラチオン ジュネーヴ市議会副議長より、市議会の構成について伺う。

人口19万人のジュネーヴ市で市議会議員は80人と、人口比では品川区の4倍。基本的に兼業で、議会は基本的に夕方以降行われる。報酬は出席に対して支払われる。女性議員の割合は2割程度とのことだった。晩餐会の際、ハーブで日本の箏曲も演奏され、ここにもおもてなしの配慮を感じた。

【9月17日（土）3日目】

⑥ 国際連合欧州本部見学

本館では、通常非公開の理事会室を見学。五大大陸が手を組んで平和への道を探るという寓意に満ちた天井画が圧巻。渡り廊下では、高齢者や認知症の人々の人権をテーマにした写真展。新館企画展では、原爆をテーマに広島・長崎関連の資料、折鶴、核兵器に反対する日本からの署名の束などが展示されており、どちらも身近に感じた。

⑦ ジュネーヴ市中心街見学

4人程度の小グループに分かれ、AAGSの会員の方々と見学。ジュネーヴでの暮らしや食事、交通事情などについて話を伺いながら街歩きをしたりデパートの地下を訪ねたりすることで、ジュネーヴ市民の日常生活を垣間見ることができ、たいへん有意義であった。5年後の訪問団迎え入れ、またその他の機会でも、少人数での街歩きというエクスカージョンは積極的に実施してほしいと思う。

⑧ AAGS 主催 懇親会

品川寺の梵鐘を縁とした品川寺・品川区とジュネーヴ市との友好の歩みをまとめた映像を会場で上映。非常に盛大な懇親会であり、AAGS側の熱意が強く伝わってきた。AAGSと品川寺との関係の濃さを感じさせる場でもあった。多くの会員の方と話を深め、また品川区の共通の知人の話で盛り上がったたり、連絡先を交換するなど、つながりの深まりを実感することができた。昼食時にお話ししたルソー博物館の方から、友好憲章締結10周年を記念してジュネーヴで出版された青少年交流記念書籍をいただいた。双方の子どもたちの率直な感想や関係者の思い、そして多くの写真を通して、青少年交流の様子がうかがわれた。こうした資料を品川側でも制作して、多くの区民に事業を理解してもらおう努力もできればと思う。

【9月18日（日）4日目】

⑨ サン・ピエル大聖堂での記念合同礼拝

聖ピエル大聖堂にて、シュミット牧師と品川寺仲田順和座主ならびに関係の僧侶による合同礼拝。このとき、会員のお一人から、ジュネーヴ市の青少年音楽隊のCDをいただいた。

⑩ アリアナ美術館 梵鐘記念式典

梵鐘の周囲には、AAGSで植樹した10本の桜の木も育っており、AAGSの方々がさまざまな形で品川や日本に思いを寄せ、活動されていることが伝わってきた。アリアナ美術館内を鑑賞。この美術館をつくったルビオ氏の審美眼のおかげで、梵鐘が銃弾になる寸前に救い出された奇跡に思いを馳せた。

⑪ 赤十字博物館見学

館内自由見学。「人権擁護」「家族の再会支援」「自然災害リスクの軽減」の3つのコーナーに分かれ、対話・双方型あるいは体験型の展示となっている。地雷で足を失った人の等身大パネルの手に掌を合わせると、本人からのメッセージがイヤホンから流れたり、戦争捕虜の居場所を台帳から探す作業を体験できるなど、展示方法が非常に印象的だった。

⑫ 品川区主催 サヨナラパーティ

オープニングでは法被を着てのお出迎え。前日のAAGS主催パーティに比べコンパクトであったものの、温かな雰囲気の良い返礼パーティだったと感じた。公式の場におけるスピーチの意味と力を感じさせられた機会でもあった。

【9月19日（月）5日目】

⑬ 空港お見送り

ジュネーヴ空港で搭乗手続き終了後、会長、副会長と最後の別れを惜しんだ。お忙しい中、到着時から出発までほぼすべてに同行いただき、また正味3日間でこれだけ多くの歓迎行事や訪問先に関わる細かな手配等々をしてくださっていたことにあらためて感銘を受けた。5年後にはジュネーヴ市からの訪問団が来品することになっているが、区としてどのように迎えるか、今回のジュネーヴ側のおもてなしに見合う配慮をどうしたら示せるのか、その視点からも品川の町の魅力と文化的歴史的資産を再度見直す必要があると強く感じた。

【その他】 事業に関する区民への周知・理解・参画

今回の訪問を通して、ホームステイ事業が25年間続いていることの価値とそれを支える方々の熱意を再認識した。一方で、訪問前後の聞き取りから、この事業があまりにも多くの区民に知られていないこと、事業だけでなく品川区とジュネーヴ市の交流自体を多くの区民が知らないことを痛感し、また事業に参加した人たちが自分の経験を伝える機会が乏しいことを残念に思っていることも知った。区民に理解され、区民が関われる事業にしていくことが必要と思う。また25年前と違い、メールはもちろんSNSも普及した現在、直接訪問だけではない、より日常的で低コストの交流を行える可能性は広がっている。



コミュニケ調印前の濱野区長挨拶

品川・ジュネーヴ友好憲章締結 25 周年記念事業 品川区公式訪問レポート
氏名 堀越 明 地域振興部長

今回、ジュネーヴ市との友好憲章締結 25 周年記念コミュニケ調印、および、交流のきっかけとなった梵鐘の記念式典参加などを目的とする訪問に随行させていただいた。品川区訪問団としては実に 20 年ぶりのジュネーヴ市への訪問となる。

なお、行程については次頁のとおりである。

品川寺の梵鐘が辿った数奇な運命とその奇跡的な発見により、現在まで品川区とジュネーヴ市が長く、親しい友好関係を続けてこられること、また、毎年どちらかの青少年がホームステイ派遣生として行き来し、品川区の子どもたちがジュネーヴ市で手厚い歓迎を受け、さまざまな体験や学びを通して国際感覚を身に着けて帰国していることを、今回のジュネーヴ訪問で改めて確認することができた。

バラズンジュネーヴ市長は多忙で分刻みのスケジュールの中、我々を空港内でお出迎えいただいたうえ、歓迎会・懇親会・サヨナラパーティすべてに出席して下さった。また、ニーゼル会長をはじめとしたたくさんのジュネーヴ・品川友好協会会員の方々が手書きの招待状や、市街地視察、パーティの案内役まで、細やかで温かい気配りをしてくださり、我々品川区公式訪問団を本当に歓迎してくれていると日々感じる事ができた。

訪問前、実質 3 日間という短い時間ではあるが、できるだけたくさんの人々と交流を深めて実りあるものにし、品川へと持ち帰ろうと決めていたが、ジュネーヴ市の方々のおかげで、目的をきちんと果たすことが出来、充実した訪問にできたことは感謝に絶えない。

25 年、四半世紀という節目は、ヨーロッパでは大事な区切りであるとのことで、ジュネーヴ市の友好憲章 25 周年記念のコミュニケ調印や、梵鐘記念式典にかける熱意と情熱はなみなみならぬものであり、また、初めて会った方々にもかかわらず両区市の絆を感じるほどの交流ができたのは、25 年間の両区市の友好関係の賜物である。

1991 年の友好憲章では「(両区市の) 代表は心からの友情を込めて次のとおり宣言する」とうたっている。そして今回 25 周年のコミュニケにおいては「継続的かつ有意義な交流のもと、互いに固い友情の絆で結ばれ、これ

を次の世代へ引き継いでいくものとする」と、未来に向けて発展していく旨を濱野健 品川区長とギヨーム・バラゾン ジュネーヴ市長がお互いに確認した。

友好憲章締結のきっかけとなった梵鐘が海を越え、また、文化や言葉の違いを越えて品川区とジュネーヴ市をいまでも結び付けてくれているように、両区市の友情を次世代につなぎ、青少年ホームステイ派遣などを通じてより一層努力していくことが、今回お世話になったジュネーヴ市、ジュネーヴ・品川友好協会、在ジュネーヴ日本政府代表部の方々へのご恩返しにもつながる。

このことを、実際に現地を訪問することにより体感できたことは大きな成果であった。

《行 程》

日時	内容	場所
1日目 9月15日(木)	ジュネーヴ市長お出迎え	空港
2日目 9月16日(金)	ジュネーヴ旧市街地 視察	ジュネーヴ旧市街
	市庁舎表敬訪問	ジュネーヴ市庁舎
	友好憲章締結25周年コミュニケ署名	
	ジュネーヴ市立植物園 兼博物館「ボタニカルガーデン」視察	ボタニカルガーデン
	ジュネーヴ市主催 歓迎会	ジュネーヴ市庁舎内迎賓室
3日目 9月17日(土)	国連欧州本部 見学	国連欧州本部
	ジュネーヴ市中心街 見学	ジュネーヴ中心街
	AAGS 主催 懇親会	インターコンチネンタルホテル
4日目 9月18日(日)	記念合同礼拝	サン・ピエール大聖堂
	梵鐘記念式典	アリアナ美術館庭園
	赤十字博物館 見学	赤十字博物館
	品川区主催 サヨナラパーティ	Vieux-Bois
5日目 9月19日(月)	AAGS お見送り	空港

1. 派遣の経過

スイス連邦ジュネーヴ州ジュネーヴ市と品川区は友好憲章を締結して25年を迎えることを機に、ジュネーヴ市長より品川区長に訪問団を歓迎したいとの書簡があった。これを受け、品川区長より区議会議長に訪問団の一員として議長はじめ議会代表4名と事務局長を随行として同行の依頼があった。依頼を受け、議会運営委員会において派遣を決め、28年7月7日第2回定例会本会議において議決により議員派遣の決定がされ、今回の品川・ジュネーヴ公式訪問団の一員として議長、4名の議員が28年9月15日から28年9月20日まで訪問。

2. 公式訪問団の目的

1991年9月9日、品川寺がジュネーヴ市に贈った梵鐘の開眼式を契機に、品川区とジュネーヴ市において友好憲章が締結された。以降両区市は友好を深めようと（財）品川国際友好協会とジュネーヴ・品川友好協会（以下AAGS）の協力を得て、青少年の交流プログラムに尽力されてきた。以来4半世紀にわたる品川区とジュネーヴ市の両区市の交流について再確認し、さらに未来に向けて親密かつ恒久的な友好関係を結び友好親善を図っていく。友好憲章25周年にあたり、コミュニケにサインを行うとともにジュネーヴ市、AAGSと交流を深め、両区市の絆を結ぶ。

3. 議長および区議会議員訪問内容等

【28年9月15日（木）1日目】

9月15日成田空港を出発し、ジュネーヴ空港に到着。空港貴賓室にて、区長、議長、各議員はバラゾンジュネーヴ市長をはじめニーゼルAAGS会長の出迎えを受けられた。また、AAGS会員の方々の出迎えをいただいた。

【9月16日（金）2日目】

ジュネーヴ市旧市街地視察ということでニーゼル会長はじめ会員の方々の案内により、ジュネーヴ市旧市街地の案内をいただいた。その後、市庁舎を表敬訪問し友好憲章コミュニケ署名に立ち会われた。バラゾンジュネーヴ市長、ジュネーヴ市幹部・職員、ニーゼルAAGS会長、ビュルカルツ初代AAGS会長、同副会長・会員、品川寺仲田順和座主ほか50名が参加された。友好憲章のコミュニケが厳かな雰囲気の中なかで交わされた。

午後から、ジュネーヴ市立植物園兼博物館「ボタニカルガーデン」の視察となった。ニーゼルAAGS会長、ボタニカルガーデン館長の案内でそれぞれの分野の研究者から植物のDNA鑑定の方法等の説明を受けられた。

夜は、ジュネーヴ市主催の晩餐会（歓迎式典）に招かれた。約70名が参加され、バラゾンジュネーヴ市長、ジュネーヴ市議会ラチオン副議長、ジュネーヴ市幹部、在ジュネーヴ日本政府代表部嘉治大使、久保田領事、AAGS会員、品川寺仲田順和座主他が参加され交流を深められた。

【9月17日（土）3日目】

国際連合欧州本部の旧館新館を見学。人権会議場、国連総会会議場などを見学してもらい会議場の特徴や由来などの説明を受けた。濱野区長、大沢議長は、品川寺仲田順和座主、在スイス国日本大使とともにジュネーヴ市長主催の昼食会に出席された。午後からジュネーヴ市中心街を数グループに分かれ、AAGS会員の案内で散策された。夜は、AAGS主催の懇親会に招かれた。約140名が参加され、ニーゼルAAGS会長をはじめ会員、バラゾンジュネーヴ市長、ラチオン市議会副議長、在ジュネーヴ日本政府代表部嘉治大使、久保田領事、品川寺仲田順和座主・関係者などが参加されそれぞれ代表の方々のあいさつのあと、青少年ホームステイ事業で品川区に来られた学生の体験談が語られた。各テーブルごとに議長・各議員も加わり交流を深められた。

【9月18日（日）4日目】

サン・ピエール大聖堂での記念合同礼拝に参加された。讃美歌のあと品川寺関係者による読経が行われた。午後、アリアナ美術館を見学し、アリアナ美術館庭園梵鐘の前で品川寺の法要がおこなわれ、品川寺関係者、AAGS会長、会員の方々含め全体で100名の方が参加された。その後、近くの赤十字博物館を見学された。赤十字誕生150年を記念してリニューアルオープンされた博物館である。夜は、品川区主催のサヨナラパーティに参加され、滞在中の謝意を伝えるとともに交流を深められた。バラゾンジュネーヴ市長、ラチオン市議会副議長、ジュネーヴ市幹部、ニーゼルAAGS会長・会員、青木公司、久保田領事、品川寺関係者含め60名が参加された。品川区の法被を着用し出席者の出迎えをされた。大沢議長より両区市の交流の中心となっている青少年交流事業の重要性や今後の発展について挨拶をされた。

【9月19日（月）5日目】

ジュネーヴ空港にてニーゼルAAGS会長・副会長・会員の見送りを受け帰国となった。

【9月20日（火）6日目】成田空港到着

参 考 (資 料)

品川区・ジュネーヴ市 交流経緯

年	交流内容
1919年（大正8年）	品川寺の梵鐘がアリアナ美術館で発見 （1867年パリ博出品以降、行方不明）
1930年（昭和5年）	関係者の働きかけとジュネーヴ市の厚意により、梵鐘が品川寺に贈還。
1990年（平成2年）	品川寺は梵鐘の鑄造333周年と贈還60周年、スイス建国700周年を記念し、実物大の梵鐘複製を贈呈。 両区市間の交流について話し合うため、両区市を訪問。
1991年（平成3年） 9月9日	ジュネーヴ市へ品川区公式訪問団を派遣。 区長・市長が「友好憲章」調印。 アリアナ美術館の新梵鐘落成式に出席。
1992年（平成4年） 1周年 派遣	ジュネーヴ市公式訪問団受入（1周年記念）。 ジュネーヴ・品川友好協会（AAGS）発足。 青少年ホームステイ開始（派遣）。
1993年（平成5年） 受入	青少年ホームステイ受入。
1996年（平成8年） 5周年：派遣	友好憲章締結5周年記念として品川区公式訪問団派遣。
2001年（平成13年） 10周年：受入	友好憲章締結10周年記念としてジュネーヴ市公式訪問団を受け入れ。
2006年（平成18年） 15周年：派遣中止	友好憲章締結15周年だったが高橋区長急逝により公式訪問中止。親善訪問団のみ派遣。
2011年（平成23年） 20周年：受入中止	友好憲章締結20周年だったが、東日本大震災発生により中止。
2016年（平成28年）	友好憲章締結25周年。20年ぶりの品川区からの公式訪問団派遣となる。



品川区

友好憲章

品川区

ジュネーヴ市

1991年9月8日 品川区とジュネーヴ市の代表者立会いのもとに品川寺より贈還された新梵鐘の音が60年間の沈黙を破って初めてアリアナ公園に響き渡った。

国連のヨーロッパ本部と国際赤十字本部の間に鳴るこの梵鐘の響きは世界の平和を願う両区市民の大いなる喜びを表すものである。

ここに品川区並びにジュネーヴ市の代表は心からの友情をこめて次のとおり宣言する。

記

品川区とジュネーヴ市とは友好憲章の締結にあたり世界平和の推進という共通認識のもと、相互理解と共通の目的にたつて両区市民を代表し下記のとおり決意表明する。

1. 率直かつ誠意をもって両都市の交流の開花と発展に努力する。

1. 親密かつ恒久的な友好関係を養う。

1. 文化・教育・経済等あらゆる可能な分野にわたり交流を促進する。

上記の決意を確固たるものとするためにすべての区市民をはじめ、関係諸団体並びに協会に対し具体的かつ有意義なる品川区—ジュネーヴ市間の交流の推進を呼びかける。

この証として、本日、1991年9月9日、本友好憲章を2通作成し署名する。

高橋 久二

日本国東京都品川区
区長 高橋 久二

スイス連邦国ジュネーヴ州ジュネーヴ市
市長 ジャクリン ビュルナン

品川区 —— ジュネーヴ市親善交流コミュニケ

1991年 9月 9日

スイス連邦国 ジュネーヴ州

ジュネーヴ市

品川区とジュネーヴ市は高橋久二区長とジャクリン・ビュルナン市長の指導のもとに品川区国際民間友好協会とジュネーヴ・品川委員会の協力を得て、両区市間の友好親善の継続と発展をここに発表することを喜びとするものである。

このコミュニケによって将来におけるいくつかの具体的計画を明らかにする。

1. 1992年の適当な時期にジュネーヴ市長をはじめとする訪問団は品川区を訪問し、両区市の友好親善を一層深める。
2. 両区市は14歳から17歳の青少年のために休日期間を利用して2週間のホームステイ事業を奨励する。1992年を最初の交流の目標として、品川区から15名の青少年がジュネーヴ市を訪問する。この青少年訪問団は公式の付添者2名が訪問を引率する。以後、毎年交代で一方が他方を訪問する。

さらに、両区市は仏語および日本語の語学研修を基にした生徒のホームステイ交流を奨励する。

3. 両区市は今後、適当な時期に親善訪問団、文化使節団、経済視察団などの両区市民交流を協議し奨励する。

品川区とジュネーヴ市は両区市の理解と友情が今後実施される交流事業を通して進展することを希望するものである。

日本国 東京都
品川区長
高橋久二

スイス連邦国 ジュネーヴ州
ジュネーヴ市長
ジャクリン・ビュルナン

CHARTRE D'AMITIÉ

Arrondissement de Shinagawa

Ville de Genève

Le 8 septembre 1991, en présence des autorités de la Ville de Genève et de l'Arrondissement de Shinagawa, le son de la nouvelle cloche offerte par le Temple du Honsen-ji retentit pour la première fois dans le parc de l'Ariana après un silence de 60 années.

Sa voix profonde qui vibre entre le siège européen des Nations Unies et le Comité international de la Croix-Rouge et du Croissant-Rouge exprime les vœux sincères que forment les populations de nos deux villes pour la paix dans le monde.

Dans un esprit de réelle amitié mutuelle, les représentants de la Ville de Genève et de l'Arrondissement de Shinagawa déclarent:

Nous,

Ville de Genève et

Arrondissement de Shinagawa,

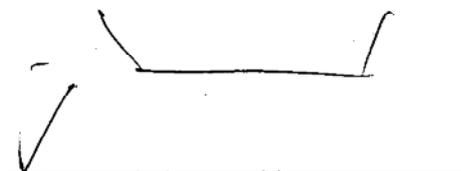
en concluant la présente Charte d'Amitié au nom des populations de nos deux villes et animés d'un désir réciproque de promouvoir la paix dans le monde, affirmons notre volonté

- d'établir et de développer des relations franches et sincères entre nos deux communautés
- de favoriser des liens d'amitié durables
- de promouvoir des échanges culturels, éducatifs, économiques et autres,

faisons appel à tous les citoyens, groupes et associations pour consolider ce rapprochement par des échanges concrets et fructueux entre les deux villes.

En foi de quoi nous apposons notre signature sur deux documents, ce lundi 9 septembre 1991.

La Maire de la Ville de Genève



Jacqueline Burnand

Le Maire de l'Arrondissement
de Shinagawa



Kyuji Takahashi

GENEVA - SHINAGAWA GOODWILL EXCHANGE COMMUNIQUE

9 September, 1991
Geneva, Switzerland

The City of Geneva and the Borough of Shinagawa, led by Mayors Jacqueline Burnand and Kyuji Takahashi, and assisted by the Geneva-Shinagawa Committee and the Shinagawa-Ku International Civil Friendship Association, are delighted to announce the continuation and growth of the friendly relations between City and Borough.

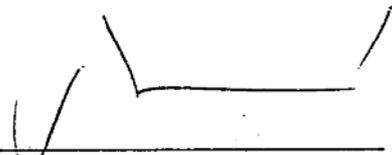
With this communique we would like to indicate several specific programs that will occur in the future. Specifically :

1. The mayor of Geneva and a delegation will visit Shinagawa at appropriate time in 1992 and promote more friendly relations between City and Borough.
2. Both City and Borough will encourage two weeks homestay programme for young people between the ages of 14 and 17 using the holiday seasons. Aiming at a first exchange in 1992, 15 youth delegates from Shinagawa will visit Geneva. This youth delegation will be officially escorted by two chaperones during their visit. Hereafter, a delegation from each City and Borough will visit their partner in alternate years.

Further, both City and Borough will encourage exchange of students on a homestay basis for the study of French and Japanese.

3. Both City and Borough will discuss and encourage several exchanges between both citizens, which will be sent a goodwill delegation, a cultural mission, an economic inspection and so on, at appropriate time in the future.

The City of Geneva and the Borough Shinagawa hope to promote the understanding and friendship of our city and borough through the exchange programmes that will be carried out.



Jacqueline Burnand
Mayor of Geneva
Geneva, Switzerland



Kyuji Takahashi
Mayor of Shinagawa
Tokyo, Japan

品川寺（南品川3-5-17）の梵鐘とアリアナ美術館

真言宗醍醐派別格本山 品川寺は、弘法大師空海により806年～810年（大同年間）に創建された寺である。

現在、品川寺にある梵鐘は1657年（明歴3年）、徳川家綱（徳川幕府第四代将軍）により徳川家康、秀忠、家光の供養のために京都三条の鋳物士 大西五郎左衛門が鋳造し、寄進された。鐘身には京都七条の大仏師 康斎が六観音像を浮き彫りにし、観音経一卷が陰刻されている。

この鐘は、1897年のパリ万博と1873年のウィーン万博に展示するために海外へ持ち出されたが、その後所在不明となっていた。

1919年（大正8年）、当時の住職 仲田順海和上がスイス・ジュネーヴ市のアリアナ美術館に所蔵され、開閉館の鐘として使用されていることが確認された。

鐘は外務大臣 幣原喜重郎ほか多くの人々の尽力もあり、1929年（昭和4年）ジュネーヴ市議会が満場一致で返還に同意。1930年（昭和5年）、ジュネーヴ市より品川寺へ贈還された。

鐘は、1930年5月4日に、小泉又二郎大臣（小泉純一郎元首相の祖父）やスイス国トラベルシニー駐日公使ら5,000人が参加した東京日比谷音楽堂での「スイス国贈還大梵鐘歓迎会」で迎えられ、翌5月5日に牛車に引かれた大梵鐘は品川町民総出で迎えた「品川寺大恩賞歓迎会」で無事に品川寺に安置された。同年、品川寺はアリアナ美術館へ石灯籠を贈呈している。

1964年（昭和39年）、東京オリンピック開催時にスイス選手団150人が品川寺を訪問した。これを契機に1990年（平成2年）、梵鐘鋳造333年・贈還60周年・スイス建国700年を記念し、新梵鐘がジュネーヴ市に贈呈され、アリアナ美術館の庭に設置された。

1991年（平成3年）、品川区とジュネーヴ市で友好憲章が締結され、1985年に品川区に設立された品川国際民間友好協会（1992年～品川区国際友好協会 SIFA に名称変更）とジュネーヴ市のジュネーヴ・品川友好協会（AAGS 1992年～）により、1992年から隔年で青少年派遣を行うなどの民間での友好事業も行われることとなった。

2016年（平成28年）9月、ジュネーヴ市で行われた友好憲章締結25周年記念式典では、両区市によるコミュニケ調印を行った。その後、アリアナ美術館の庭で、品川寺により梵鐘の記念式典を行った。

ジュネーヴ市 交流事業（派遣・受入数）

交流種別	ホームステイ				周年行事			
	派遣		受入		派遣		受入	
	派遣生	引率	受入生	引率	公式	親善	公式	親善
昭和59年度								
昭和60年度								
昭和61年度								
昭和62年度								
昭和63年度								
平成元年度								
平成2年度								
平成3年度					13			
平成4年度	15	2						
平成5年度			16	1				
平成6年度	16	2						
平成7年度			15	3				
平成8年度	17	2			15	220		
平成9年度			18	2				
平成10年度	16	2						
平成11年度			17	2				
平成12年度	16	2						
平成13年度			18	2			12	180
平成14年度	16	2						
平成15年度			18	2				
平成16年度	16	2						
平成17年度			17	2				
平成18年度	16	2				38		
平成19年度			18	2				
平成20年度	16	2						
平成21年度	☆新型インフルエンザの世界的感染拡大のため、海外交流事業を中止							
平成22年度			18	2				
平成23年度	16	2						
平成24年度			18	2				
平成25年度	16	2						
平成26年度			16	2				
平成27年度	16	2						18
平成28年度			17	2				
小計	176	22	206	24	28	258	12	198
都市別計	878（引率除く）				924（引率含む）			

◆ スイス・ジュネーブ 都市情報 ◆

自然の美しさと歴史の重み、プロテスタント布教の尖兵としての自負と香り高い文化、近代都市としての機能性にあふれた町、ジュネーブ。精密機器や時計製造など、産業においても古い歴史を持ち、その名声は現在も全世界に広がっている。そんなジュネーブの歴史は古く、カエサルの遠征紀『ガリア戦記』のなかに、ゲナウアという名で登場している。フランス革命後のフランス併合を経て、1815年のウィーン会議でスイスの独立と永世中立が保証され、ジュネーブも22番目の州として加入が認められた。現在は、WHOをはじめとする各種国連機構が200以上も集中し、各国から官僚や政治家が集うほか、外国人居住者も多岐。国際色豊かな商業都市ゆえ、市内には有名レストランや高級宝飾時計、ブランド品を扱う店も軒を連ねる。

国情報 |

時差	日本との時差は-8時間。ジュネーブの方が遅れている。サマータイム期間(2016/3/27~2016/10/30)は-7時間。[2016年情報]
通貨	1スイスフラン(CHF)=100サンチーム 円換算 109.25円/更新日:2016.08.24
交通	ジュネーブ国際空港(GVA)から4KM、列車 6分、タクシー15分 スイスフラン35-45。市バス 3.5スイスフラン、発券機が荷物受取エリアにある。80分以内であれば他の公共交通機関に乗り継ぎ可能。
査証	不要:180日間で90日以内の観光は査証不要。 備考:シェンゲン協定加盟国
旅券	シェンゲン協定加盟国出国時3ヵ月以上必要。
プラグ電圧	プラグ:Bタイプ Cタイプ 電圧:220~230V/周波数:50Hz 



平均気温・降水量・服装

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
最高気温	5	7	11	15	20	23	25	24	20	15	9	6
最低気温	-2	-1	2	5	9	12	14	14	10	7	2	-1
降水量	65	58	65	73	82	105	121	108	91	79	72	75
服装	D	D	C/D	C/D	B/C	B/C	A/C	A/C	B/C	B/C	C/D	D



※気温は℃、降水量はmm

※A:夏服・半袖 B:薄手のセーター、カーディガン等

C:冬服・薄手のコート等 D:厚手のコート、手袋等の防寒具



【ジュネーブ旧市街】

【国際連合欧州本部】



【国際赤十字博物館】



コミュニケ署名前 机上準備

CONSEIL ADMINISTRATIF

PALAIS EYNARD
RUE DE LA CROIX-ROUGE 4
CASE POSTALE 3983
CH-1211 GENÈVE 3
T +41(0)22 418 29 00
F +41(0)22 418 29 01
www.ville-geneve.ch



VILLE DE
GENÈVE

Mr Takeshi Hamano
Mayor of Shinagawa City
Shinagawa City Office
2-1-36 Hiromachi, Shinagawa-ku
Tokyo 140-8715
Japan

Geneva, 18th March, 2015

Subject

**25th Anniversary of the signing of the Shinagawa-Geneva Friendship Charter
September 15 - 19, 2016**

Dear Mayor Hamano,

2016 marks an important year for the relationship between our two cities as we will be celebrating the twenty-fifth anniversary of the Friendship Charter, signed in September 1991.

The three-day festivities are scheduled to commence on Friday, 16th September and will last until Sunday, 18th September, 2016. It would be a great honour for us to invite you as well as a delegation of 8 persons on this occasion. The programme is being set up in cooperation with the Shinagawa-Geneva Friendship Association and we will send it to you as soon as we have a more definitive schedule.

We truly hope that you will be able to come to Geneva for this milestone celebration of our friendship. We would be grateful if your secretariat could confirm your participation in this anniversary to the External Affairs Office of the City of Geneva by email (laurence.gagnebin@ville-ge.ch) or by fax (+41 22 418 29 83). Should you have any further questions, please do not hesitate to contact Mrs Laurence Gagnebin (+41 22 418 29 97).

We can only rejoice at the strong ties between our two municipalities and express the wish that they will continue with the same strength.

Yours sincerely,

ON BEHALF OF THE EXECUTIVE COUNCIL

Director General:

Jacques Moret

Mayor:

Sami Kanaan

2015年3月18日ジュネーヴ市

件名

2016年9月15－19日品川区ジュネーヴ市友好憲章締結25周年記念

品川区長 濱野 健 様

2016年は1991年9月に両都市間で友好憲章締結25周年という重要なふしめの年です。

3日間の祭典は9月16日金曜日に始まり18日日曜日に終了します。

この時期に8名の代表団と一緒にあなたをお招きすることは私たちにとってたいへん光栄なことです。

プログラムは品川ジュネーヴ友好協会と協力のもとに準備されます。

さらに詳細なスケジュールは決まり次第お知らせします。

あなたが、私たちの友好関係の記念すべき祝賀会のためにジュネーヴ市に来られることを心から望んでおります。

あなたの秘書官がジュネーヴ市の海外担当所管へEメール (laurence.gagnebin@ville-je.ch) 又はfax(+41 22 418 29 83)であなたのこの記念行事に出席についての連絡を(確認させて)いただければありがたいです。

さらに質問がありましたら、ローランス・ガニューバン (+41 22 418 29 97) に遠慮なくご連絡をお取りください。

我々は両都市間の強い結びつきを喜び、今後も同様続くことを望んでいます。

敬具

理事会のもとに

事務総長

市長

ジャック・モレ

サミ・カナーン



帰国日 ジュネーヴ空港にて

発行 平成28年11月
発行者 品川区地域振興部地域活動課
国際担当